

送り手
受け手
と
でわかる

受動態

Knowing More about Passive Voice



文法を英語で教える、日本語で教える！

英語で文法を扱うというときの視点の持ち方とは！

生徒の文法に対する興味を喚起する！



商品番号
E127-S 132分
[全1巻] 8,000円+税

授業解説 **内田浩樹** 国際教養大学大学院
英語教育実践領域教授
協力：英語教育・達人セミナー
授業クラス：東京女子学園中学校・高等学校

国際教養大学
Akita International University

教えるのが
楽しみになる
文法 シリーズ
Teaching Grammar
Made Easy

4

「英語の授業は英語で行う」という時代に入り、文法事項も英語で教えるべきなのか？という質問をよくいただきます。文法は英語で教えるべきか？ということに関しては、いろいろな考え方がありますが、英語圏でのEFLセッティングをモデルされる場合が多いようです。そういう所では文法事項も英語で教えられていますのでそのようにすることは可能だと言えますが、日本の学校教育の状況でみると必ずしもそうする必要はないと思います。つまり、英語圏のEFLセッティングとは母語を共有しない状態での授業になりますが、日本の学校教育では、母語を共有しているので、その利点を活かすべきだという考え方もあります。日本語にないような表現（例えば現在完了や関係代名詞）は日本語で説明してしまって、言語活動に時間を回すということもできます。視覚的にわかりやすい項目（例えば比較）などは、英語で最初から説明してみても面白いかもしれません。

英語で授業をするときに特に大切なのは、Meaning-focused inputになるようにすることです。Meaning-focused input(MF)にするためには、ほとんどの単語は、生徒が既に知っているものを使わなくてはなりません。つまり既習の言語項目（単語・文法）に繰り返し触れる機会を与えることになります。英語で授業をするということはそういうこと(MF input)をたくさん与えるということでもあるのです。

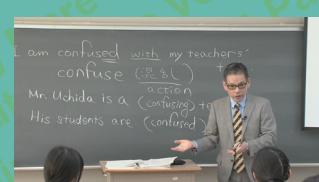
今回は、「受動態」というテーマで、英語での授業と日本語での授業をお見せしますが、 英語で文法を扱うというときの視点の持ち方を見ていただくのが目的です。例えば、主語+be動詞+過去分詞+byというようなことは概ね理解できたところで、なぜbyがあるのか、とかなぜbe動詞が必要なのかという、生徒にとってはやっかいだと感じる部分を英語で説明することによって、 生徒が文法に対してそうだったのか！という発見をさせることができます。

尚、授業で使用したパワーポイントのファイル等の資料がダウンロードで入手できますので、実際の授業でぐにご活用いただけます。

購入特典

授業で使える
パワーポイント

スライド23枚×英日2種類
&
解説書(10ページ)のファイル!!



はじめに この授業の概要とそのねらい

授業1：英語での授業 Knowing More about Passive Voice

- Warm-up
 - Find the action (ねらい：動詞を意識する)
 - Find the doer (ねらい：動詞の意味上の主語【動作主】を意識する)
 - Find the receiver (ねらい：動詞の目的語を動作の受け手という観点で意識する)
 - You Use "Number 3" (ねらい：受動態では動詞が過去分詞に固定されていることを意識する)
 - Find the action, doer and receiver (ねらい：動詞の意味上の主語【動作主】を意識する)
(ねらい：動詞の目的語を動作の受け手という観点で意識する)
 - What are they? (ねらい：動作の送り手を明らかにする印としての by を意識する)
(ねらい：助動詞としての be 動詞の働きを意識する)
 - "by" has some friends (ねらい：by 以外の前置詞を用いた受動態の存在を意識する)
 - No.3 or No. 4 (Interested or Interesting?)
(ねらい：現在分詞・過去分詞の形容詞的用法の意味の違いを意識する)
 - Now You Know…What Is Most Important?
- ◇「受動態」学習のポイント

授業2：日本語での授業 「送り手」と「受け手」でわかる受動態

- オームアップ
 - 動作を探そう (ねらい：動詞を意識する)
 - 動作の「送り手」を探そう (ねらい：動詞の意味上の主語【動作主】を意識する)
 - 動作の「受け手」を探そう (ねらい：動詞の目的語を動作の受け手という観点で意識する)
 - 3番目を使おう (ねらい：受動態では動詞が過去分詞に固定されていることを意識する)
1(原形・現在形) / 2(過去形) / 3(過去分詞) / 4(現在分詞)
 - 「動作・送り手・受け手」を探そう (ねらい：動詞の意味上の主語【動作主】を意識する)
(ねらい：動詞の目的語を動作の受け手という観点で意識する)
 - 残ったのはなんだ？ (ねらい：動作の送り手を明らかにする印としての by を意識する)
 - ここがおもしろい (be 動詞は他でも過去 or 現在の情報を伝えている！)
(ねらい：助動詞としての be 動詞の働きを意識する)
 - by のなかま (ねらい：by 以外の前置詞を用いた受動態の存在を意識する)
 - ここがおもしろい (interesting か interested か？)
(ねらい：現在分詞・過去分詞の形容詞的用法の意味の違いを意識する)
 - 大切なことは…(わかったことは…)
- ◇「受動態」学習のポイント

おわりに

- ・今回の授業の見どころ
- ・文法用語の扱いについて
- ・文法用語に触れさせる工夫
- ・内田式文法授業の成り立ち
- ・英語で文法の授業を行うボイント